

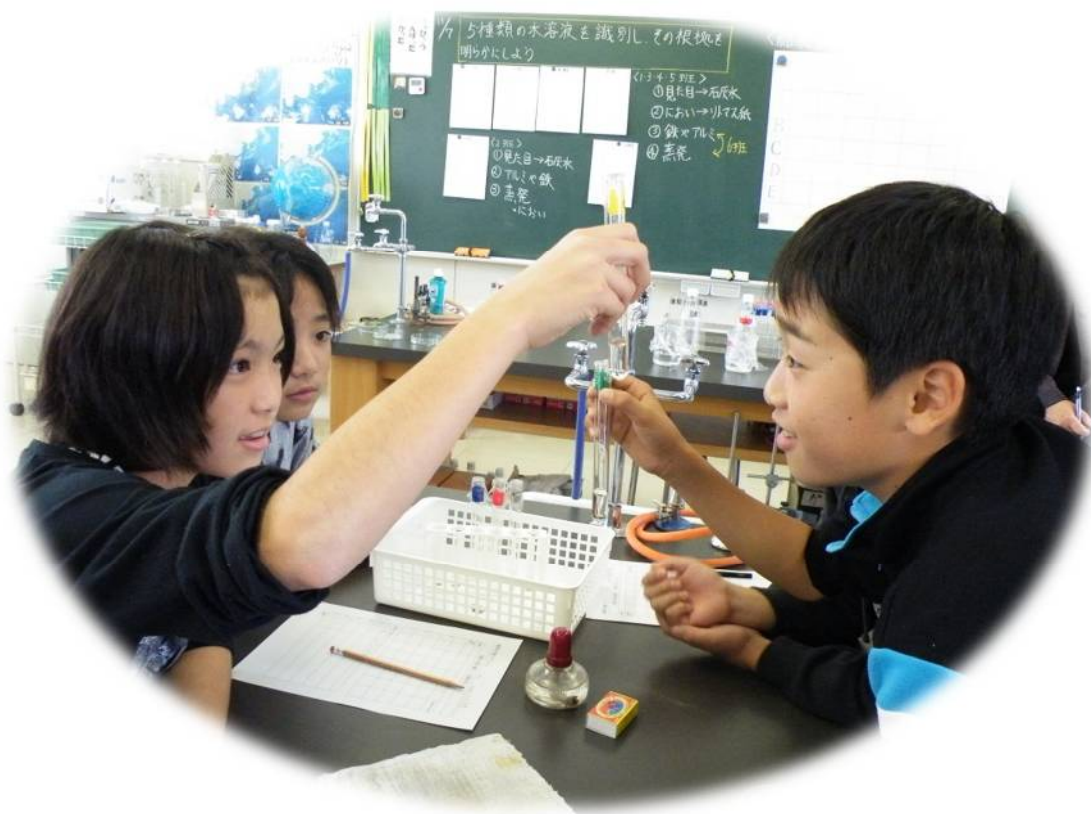
平成23年度 研究紀要 第61集

調査研究部 いきいきとした生活をするために
—安房の子ども達の自己肯定観を探る—

教育研修部 活用する力を育てる学習指導のあり方
—基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して—

情 報 部 ホームページの充実に向けて
—ホームページ閲覧数増加を目指すための方策の検討—

教育座談会 学力向上のための、地域を挙げた取り組みを!!



千葉県安房教育研究所

2012. 3

調査研究部 提言

＜いきいきとした生活をするために＞

○提言1－家庭・地域へ

人との関わりを大切にする子どもに育てましょう。

- ① 良いところに目を向け、ほめましょう。
- ② 親子でともにルールを作りましょう。
- ③ 地域の人に挨拶する習慣をつけましょう。

○提言2－学校へ

子ども達の居場所を作りましょう。

- ① 良いところに目を向け、ほめましょう。
- ② 一人一人に役割をもたせましょう。
- ③ 自分の考えを伝える機会を多く設けましょう。

教育研修部 提言

「知識及び技能を習得させ、使う場や課題を工夫すれば、活用する力が育つ」
＜「活用する力」を育てるには＞

○習得と活用の場面を指導計画に位置付け、意図的に指導しよう。

○学習の足跡を残し振り返らせ、既習事項を使わせよう。

○活用する場面を意図的に設定し、学ぶ必然性や学習の見通しをもたせよう。

○習得と活用の学習過程の連続性を生かし、基礎・基本の確実な定着を図ろう。

○言語活動を充実させ、課題解決の根拠となる事柄を把握させたり、「活用の仕方」を学ばせたりしよう。

先生方をつなぐ

研究所のホームページを目指しております。

URL <http://www.awkyoiku.com/>

e-mail awkyoiku@awkyoiku.com

2011年度のあゆみ



日常の所員研修の様子



教育研修部



調査研究部



情報部

夏季宿泊研修会



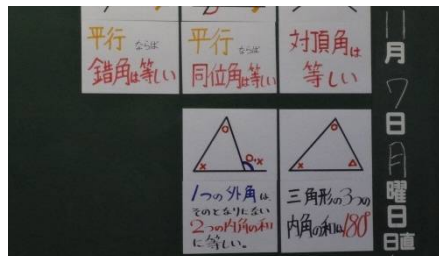
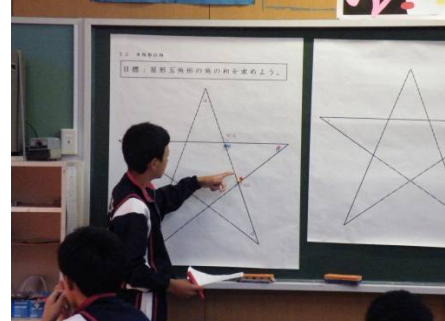
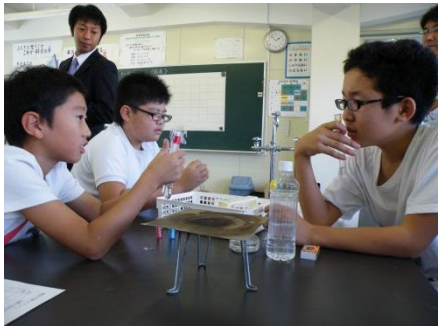
教研集会



県外研修



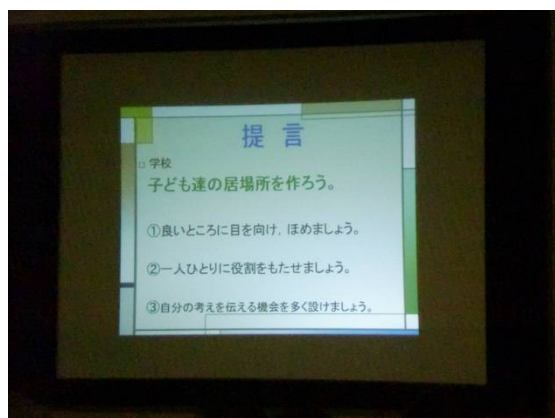
教育研修部実践授業



教育座談会



千葉県教育研究所連盟研究発表会



安房教育研究所発表会



1 年を振り返って

安房教育研究所長 速水 一郎

各市町教育委員会や校長会、そして、千教組安房支部のご支援を受け、平成23年度の安房教育研究所の活動を終えることができました。

この一年間、本研究所が、安房の教育関係者の方々に支えられていることを実感させていただくとともに、先輩諸氏が「安房の教育は、一枚岩である」と語るその一部分に触れることができました。

また、所員一人ひとりの研究に対する意識の高さ、研究を深めようとする熱い思いを、たくさんの場面で感じることができました。ありがとうございました。

○本年度、本研究所で大切にすることを述べさせていただきます。

- ・教員年齢が二極化している傾向が、各学校にみられます。「教育は人なり」の言葉のように、教師の教育観によって子どもの成長に大きな違いが生じます。経験豊かな教師が培ってきた教育文化と若い先生方の荒削りながらも熱意ある思いを融合し、教師の教育力を高めていくことができました。調査研究部・教育研修部・情報部の主事、副主事が中心となり、所員の意見を引き出し集約する過程を大切にしてくれました。
- ・所員は、30代の教員で構成されています。学校の小規模化に伴い、同世代で切磋琢磨する機会が大変少なくなっているため、本研究所での意見交換は、貴重な場となり、所員一人ひとりの考えを練ることができたであろうし、みんなで創り上げる楽しさや苦しさを感じることもできたであろうと思っています。
- ・安房教育へ少しでも還元できる研究の成果を目指しました。調査研究部では「自己肯定感」を、教育研修部では「活用する力」を、情報部では「ホームページの閲覧数のアップ」をテーマに、取り組んでまいりました。その成果は、今後の先生方の反応により判断するしかありません。多くの方々に関心を持っていただけるよう願うばかりです。

○課題もありました。

- ・研究所の活動に対しての関心が、まだまだ低いという現実がありました。教育研究集会での分科会や研究所主催の教育座談会への参加者が、やや少ないように感じました。しかし、市教育委員会関係者や高等学校の先生方も参加してくださり、徐々に広がりを見せている手応えは感じました。研究所としても、内容の周知や開催日程の検討等改善しなければならないと思いました。
- ・所員の増員を図ることも必要です。今は、所員に該当する年代の教員が少ない時代になっています。それに加え、悉皆研修へ参加する教員と重なる場合もあります。所員として活動する3年間は、時間的にも拘束され、大変ですが得るものは大きいと考えます。意欲のある教員の自薦・他薦をお願いいたします。

いつの時代でも、教員の資質が問われる。互いに意見を述べ合い、切磋琢磨することで、確かな教育観を創り上げてきたのが、安房教育でした。本研究所も、その一翼を担ってきました。その火を絶やさぬように、今後も、さらなるご支援をお願いいたします。

目 次

写真で見る 2011 年度のあゆみ	1
はじめに	千葉県安房教育研究所 所長 速水一郎 5
目 次	6

第一編《調査研究部》 「いきいきとした生活をするために」

—安房の子ども達の自己肯定感を探る— 8

第1章 本年度の調査研究	8
1 研究主題	8
2 主題について	8
3 研究のねらい	8
4 研究の内容と方法	9
5 研究経過	9
第2章 調査研究の分析と考察	10
1 「いきいきとした生活」と「自己肯定感」との関連	10
2 自己肯定感の高低による子ども達の様子	14
第3章 研究のまとめ	34
1 まとめ	34
2 子ども達がいきいきとした生活をするために【提言】	36
3 課題	36
《研究発表会における講師からの指導》	37
資料編	38

第二編《教育研修部》 「活用する力を育てる学習指導のあり方」

—基礎的・基本的な知識及び技能の習得を通して— 44

第1章 研究の方向性	44
1 研究主題	44
2 主題について	44
3 研究の目標	44
4 研究の仮説	44
5 研究の経過	45
第2章 小学校の実践	46
1 単元名 第6学年 理科「水よう液の性質」	46
2 単元について	46
3 仮説とのかかわり	47

4	単元目標	49
5	指導計画	49
6	本時の指導	51
7	手立ての考察	52
第3章	中学校の実践	58
1	単元名 第2学年 数学「図形の調べ方」	58
2	単元について	58
3	仮説とのかかわり	58
4	単元目標	60
5	指導計画	61
6	本時の指導	62
7	手立ての考察	64
第4章	研究の成果と課題	70
1	成果	70
2	課題	70
	《研究発表会における講師からの指導》	71
第三編《情報部》 「ホームページの充実に向けて」		
	—ホームページ閲覧数増加を目指すための方策の検討—	72
	活動の概要	72
1	主題	72
2	主題について	72
3	活動目標	72
4	活動内容	72
5	成果と課題	73
第四編《教育座談会》 「学力向上のための地域を挙げた取り組みを！！」		
	教育座談会記録	74
平成23年度 安房教育研究所役員一覧表		
		93
平成23年度 千葉県安房教育研究所所員一覧表		
		94
千葉県安房教育研究所 研究テーマ一覧表		
		95
あとがき		
		98